Friends this month

今月のフレンズ

3年待ちのこだわりの手作り布団
～極上の眠りを誘う現代の匠の技～

内閣総理大臣がものづくりの第一線で活躍し、優秀と認めるものを表彰する「ものづくり日本大賞」を平成25年に寝具業界で初めて受賞。その高い技術と素材の綿にこだわった布団は、注文してから届くまで3年待ちになるという、丹羽ふとん店の丹羽正行さんにお話を伺いました。

丹羽ふとん店
代表 丹羽（ニワ） 正行（マサユキ）さん
丹羽（ニワ） 拓也（タクヤ）さん（右）

今月の表紙説明

丹羽さんが抱えているのは、こだわりの布団をつくるのに欠かせない原料となる綿花です。この綿花が様々な工程を経て、匠の技により加工され最高の寝心地の布団となります。

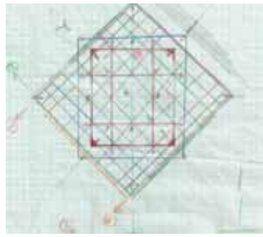
Company Data【会社概要】

設　立	昭和33年
所在地	熱田区河田町116
TEL	052-671-6473
URL	http://niwafuton.com/index.html
事業内容	ふとん製造、小売

「自分の満足できる理想的な布団を目指し、これからも日々精進です」と、丹羽さん。

綿打ち機を使った作業。今では国内のふとん業界で、綿打ちをする最後の職人と呼ばれているそうです。

布団づくりの一つ一つが手作業。布団の四隅の角に、職人の技量の差が出るとのこと。



丹羽さんの経験と布団づくりのノウハウが記録された大切な図面。

「綿打ち」のプロの家系

私の家系は元々、布団綿の製作や綿を糸にするのに必要な工程である「綿打ち」を家業としておりました。ふとん店としては昭和33年の創業ですが、私は4代目です。これは初代 忠七が江戸後期に業を起こしてから、綿打ち職人として4代目ということです。ちなみに「綿打ち」とは、綿の塊を弓のような機械で打ちつけて弾き、フワフワの雪のようにほぐす作業です。

原料となる綿の素材にまでこだわった布団をつくるのは、「綿のプロ」としての家系も強く影響していると思います。

経験や感覚に頼らない「工学的手法」

通常、布団づくりは工程のほとんどを長年の経験や感覚を頼りに行なわれますが、私は大学で工学部だったこともあり、布団づくりの「技」を理解しやすいように図面を引き、数値化する「工学的手法」を取り入れました。

こうした取り組みを40年間積み重ねることで、今の技術を体得できたと自負しております。

また「技」の伝承という点では、息子（拓也氏）が、他店へ修業に出ることなく、初参加で「技能グランプリ」に優勝できたことからも、こういった手法が役に立っていると思います。

理想の布団づくり

私が理想とする布団は「風呂上りに潜り込み、ポカポカして気持ちいいなと思っていたら、いつの間にか眠ってしまい、目覚めたら朝だった」というものです。

こうした布団を目指し、昨日より今日の出来上がりを良くしようと改良を積み重ねていますが、職人だけの考えでいると、視野が狭くなってしまいます。例えば昔のように木綿だけで布団を作るより、布団の芯の部分にナイロン繊維を少量混ぜると、軽くてふっくらとした布団が作れます。

お客様の意見を聞きながら求められているものを常に考え、布団づくりに活かすことが必要だと考えています。

第5回ものづくり日本大賞の盾と賞状。日本のものづくりのトップランナーとして認められた証です。

「常に日本一の師匠が隣にいる環境が職人としての良い刺激となっている」と、5代目の拓也さん。（右）

布団を長く使い続けるお客様が多く、打ち直しの時期がわかるようリサイクルラベルを丹羽さんが発案しました。打ち直しは5年が目安だそうです。

布団に関する様々な資料を集める丹羽さん。大切なコレクションである浮世絵は、その時代の布団の作り方の参考になるそうです。